里あるきマップ

Kyoto-Shizuhara Walking Map

経塚
薬王坂から天ヶ岳方面へ少し行くと石組の上に経塚と刻まれた石碑がある。「経塚」とは、経文を経筒・経箱に入れて埋めた塚のこと。

薬王坂
昔、伝教大師が鞍馬で薬王如来の像を造り、比叡山に帰ろうとしてこの坂を越えた時、薬王がその姿を現したことからこの名がつけられたといわれている。

南無地蔵願王大菩薩
薬王坂から鞍馬側へ少し下ったところにある。別名「小便たれ地蔵」とも呼ばれ、寝小便をする子どもを連れて願をかけ、付近の山で薬草を煎じて飲むと不思議と夜尿症が治るという。

薬王坂弥陀二尊板碑
薬王坂から静原側へ少し下ったところに朽ちた松の大木があり、その根元に２体の阿弥陀如来を浮き彫りにした石仏がひっそりと佇んでいる。

⑭天皇社
仲哀天皇と大武天皇を祭神とし、社伝では８世紀頃の創立となっている。「明幸持ち」や「お火焚き祭」などの祭礼の場となり、人々からは「下の神社」と呼ばれて親しまれている。

①若宮神社
小さく目立たない神社であるが、春と秋の祭礼とお火焚き祭の時に行われる「御幸持ち」で、静原神社から天皇社（下の神社）を経て、最後に立ち寄る神社として人々には馴染み深い神社である。

②阿弥陀寺
本尊は阿弥陀如来。浄土宗知恩院の末寺であり、1675年（延宝３）創建。４月には お釈迦様の誕生を祝う「花祭り」、8月23日には「施餓鬼会」、8月下旬には「地蔵盆」が行われる。地蔵盆は児童数の減少に伴って阿弥陀寺でのみ行われるようになった。

③静原神社
伊弉諾神と天御蔭火々産巣日神を祭神とし、社伝では４世紀頃の創建となっている。杉の古木などと相まって威厳のある社殿をもち、春と秋の祭礼をはじめ１年にわたり各種の行事が行われる。下鴨神社の「御蔭祭」と「葵祭」に静原の住民が参列する習わしが続いている。

薬師寺跡
浄土宗知恩院浄光寺の末社。本尊は薬師如来。1685年（貞享２）、清誉冷徳により創建されたが、今は廃寺。

普（補）陀洛寺旧跡
959年（天徳3）、歌人清原深養父が山荘を寺とした名刹。小野皇太后が尼となってから一生を過ごした場所であるる。大原御幸でも、後白河法皇が立ち寄っている。

④村の地蔵さん
杉の古木の下に７体の石仏が立っている。そのあたりに見られる石を並べ赤い前掛けが掛けられているだけであるが、なぜかお線香の絶えたことのない不思議な石仏である。

⑥石垣
野面積みの趣ある石垣が村の所々で見られる。自然石を用い、丈夫で排水性に優れているのが特徴。

⑦静原児童公園
もとは静原小学校があった場所、校舎屋根に火の見櫓があり、時報の太鼓が置かれていた。

⑧一ノ鳥居跡
昔、静原神社に至る参道があった。お相は鳥居の下を通ってはいけないとされ、喪中の家は１年間神社を参ったり鳥居の下を通ったりしてはいけないとされた。

⑨真名井の池
母後元伊勢近くの真名原から来た豊宇気比女命が修業したという逸話がある。池はどんな日照りでも涸れないと言われており、今は個人宅の庭に井戸として現存。

⑩灯籠
金比羅山への参詣の道中に建てられた、信仰をあらわし、信者の道中安全を祈る灯篭。深泥池、二軒茶屋にも同種の石灯籠が現存する。

大蛇退治
鞍馬寺根本堂当峰蓮王人が、北山の大蛇を退治し、静原奥山に捨てたという。

⑪普済寺（禅宗）跡
臨済宗相国寺派本山相国寺の末寺で、観世音菩薩をお祀りしてあった。享禄年間に創建された。現存していない。

⑫行者さん
昔、各地で男性が行者講を組み、奈良の大峰山（行者さん）へ登山する風習があった。その道中の安全祈願として前の川、大川で禊をし、旅立つという静原川で最も神聖な場所の一つとされたという。

⑬静原城跡
文明年間、山本佐渡守尚親が支城として築いた。足利氏に属した時の城主、山本修理大夫尚治が、明智光秀に攻撃を受け、1573年、落城した。

⑤死者の渡れない橋
かつて橋があり、植栽を担いでその橋を渡ると、亡骸が消えてしまうと伝えられていたため、忌み嫌って避けていたという。昔、この橋のそばに、弁天さんがお祀りしてあったという伝承からだろうか？

静原ハイキングコース
鞍馬に通じる薬王坂から天ヶ岳方面に進み、水谷別れを過ぎて狩場に進むと静原城本丸跡、二の丸、三の丸を経由して狩場谷入口に出る。
所要時間は、薬王坂から本丸跡までが約120分、本丸跡から狩場入口までが約30～40分、静原集会所から阿弥陀寺の横を通って本丸跡までが約40～60分。

水車
昔は杉葉からお線香を作ったり、米や麦を脱穀するための水車が静原川沿いにいくつもあった。

静原里の市
毎週日曜日、午前８時から午後１時まで開いており、静原特産の野菜を始めとして、お漬物やお寿司、美味しいうどん・そばが楽しめます。

しずはらの里コスモスまつり
例年10月に開催され、当日はコスモス畑の散策や摘み取り、小学生の「静原伝承太鼓」の演奏、また、地元産品の即売や餅つきなどを楽しむことができます。

⑯稲荷山下の社
巨石の下に小さなお社があったという。静原神社の末社。

⑰稲荷神社（いろは明神）
元極丞木家の屋敷内にお祀りしてあったが、自分の持ち由である稲荷山に移された。昭和10年頃に新築されたが、今では荒廃の一途をたどっている。

⑮巡礼像跡
諸国の神仏を巡り歩いて、参詣の途中ここで倒れなくなった人の霊を慰めるために、奇特な人により造立されたという。

洞穴
黒と赤毛のつがいの狐が住んでいたという。場所不詳。

総山神社（総さしさん）
昔の巨石を神とあがめた原型が見られる祠。場所不詳。

ホタル
静原川の浩流にホタルが乱舞する様は静原の初夏（6月末）の風物詩。
（川の上流には水源があり、今でも家庭用水として使われているほど水が美しい）

⑱石碑
金比羅山への参道を示す道標。府道40号線が大原へ開通する前には「静原下の町」のバス停付近にあった。

⑲岩穴
静原小学校の裏山に大きな岩の洞穴がある。穴の中は十数人が収容できるほどの広さで、その昔、武士の隠れ穴として武器が隠されていたとも伝えられている。

⑳馬場退
乗馬訓練、戦の訓練をしていたとされる。

愛宕さん
愛宕神は火伏せの神で、静原には９つの愛宕灯籠がある。日替わりで当番となり、各町内の灯籠に日暮れ時に灯明を供える習慣が受け継がれている。

民家
昔は茅葺きの家が多く、その後多くが瓦葺きの家になった。田の字型四つ目建ちの居室と、広い土間には竈があり、屋根に煙抜きが見られる。

土蔵
土蔵をもつ家が多く、壁には火除けの「水」や家紋の彫刻が見られる。漆喰で仕上げていない土壁りのものも多い。

安産地蔵
仮墓から南に歩いて数分の場所に祀られているお地蔵さん。昔、勘田の田圃小屋の中へ誰かが捨て置いていったのをここに安置したという。

仮墓
静原の埋葬は古くは土葬であった。かつては仮墓に埋葬されたが、墓地の川下にある御所に、汚れた水が伸くことを避けるため、寛永年間（1624-1644）頃に山の墓地に移転した。そのためここに残るのは埋葬者のない石塔のみであるとされる。墓の脇に建つ小屋には、棺を運ぶ輿が納められている。

㉑ロックゲレンデ（大原を望む）

琴平神社
堂々峯金比羅山琴平宮
1166年（仁安元）に天己貴命と崇徳天皇を合祀したのが始まり。全国にあった金比羅講中の参拝者が静原街道を往来してここに参った。ここからの岩倉、京都方面への眺めは素晴らしい。

三壺神社
金比羅山の山頂にある神社。雨壺・火壺・風壺の前で、村人総出で祈り、雨乞いをしたという。静原伝承太鼓の節にも「雨乞い」が伝わっている。

0 100 200m